

「FUT数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(令和6年度)自己点検・評価体制における意見等(様式5)

[教学IR委員会 令和7年2月5日承認]

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	令和6年度の1年次学生の履修率は60.6%(283名/467名)であり、令和5年度の79.8%から約20ポイントも低下した。その理由は定かではないが、少なくとも4月のガイダンス等で本プログラムの意義を説明して積極的な履修を促すなどの対策が必要と言える。また、本年度の単位の修得状況についてもグループ間で差はあるものの、単位を修得できなかった学生の割合は全体で約4割に達しており、令和5年度の約3割から増えている。今後、授業の内容や難易度を見直すなど、単位修得者数が増えるような取り組みが必要であると思われる。
学修成果	グループ間での成績評価の差は、令和5年度に比べると改善されているが、それでもまだ差があることから、3月あるいは4月上旬に全担当者で綿密に打ち合わせ、プログラム全体で成績評価の平準化を意識するなどの対応が必要である。なお、令和5年度に一部のグループにおいて「無」の評価が多かった点については改善されているものの、上述のように単位を履修できない学生が多いことから、さらなる改善に努める必要がある。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「良い授業であった」「色々な分野について学ぶことができた」「自分の学科以外の教員と交流できた」など、好意的な感想がある一方で、批判的な意見も相当数見られる。これらの声に真摯に耳を傾け、教員側で対応できるものについては工夫や改善をすることによって、さらなる満足度の向上につながるとと思われる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	上述のように、「受講者の4割が単位修得困難」「授業に対する批判が多数」といった状況が改善されない限り、履修率のさらなる低下を招くことになり、この科目(プログラム)の存在意義そのものが危ぶまれることになりかねない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修者数や履修率を向上させるには、受講生の意見を取り入れて満足度の高い授業を実践していく必要がある。それには「授業改善のためのアンケート」が重要な役割を果たすと言える。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「科学リテラシ」という授業科目であれば、幅広いテーマや内容を取り上げたほうが受講生の興味や関心を惹きつけることになるが、プログラムとして見た場合には、数理・データサイエンス・AIを中核に内容を整理・統一したほうがよいのではないと思われる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	全体の成績評価分布を見ると、「無」の評価が30%近くになっているところがある。主因は受講生の欠席にあるとしても、その状況をもたらしている理由を引き続き調査して改善する必要がある。また、1年次学生のみで見た場合に、「無」の評価が令和5年度の10.7%から12.7%に2ポイント増加しており、今後注視していく必要がある。